

みんなで山へ逃げました。

東日本大震災で石巻市の小学校は、被災14校、死亡・行方不明の児童186人という大きな被害を受けました。かつて体験したことのない大地の揺れと迫りくる大津波。そのとき、学校現場は危機をどのように把握し、判断し、行動したのか。石巻市立門脇小学校の児童、教師、保護者がリレーの様に語る「ことば」を通して3月11日のそのときから12日朝までに起こっていた事を鮮やかに浮かび上がらせた。



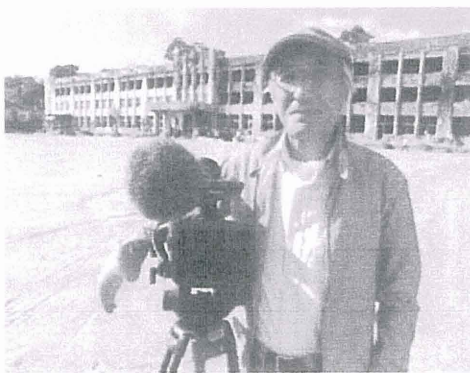
ドキュメンタリー映画 東日本大震災を記憶する証言集・学校編

3月11日を生きて

2012年/97分/監督・青池憲司/撮影・一之瀬正史

11/10
(土)

午後5時上映



午後7時から 青池憲司監督の講演

災害に立ち向かう力を与えてくれるのは「ことば」
でしかない

プロフィール

1941年、名古屋市生まれ。ドキュメンタリー映画監督。1971年に成田空港反対闘争の地で行われたコンサートを撮影した映画『日本幻野祭 三里塚』で名を馳せる。1992年『琵琶法師 山鹿良之』で毎日映画コンクールを受賞。1995年からは阪神大震災後の再生の日々を記録した「記憶のための連作『野田北部・鷹取の人びと』全14部を製作。2011年6月から1年間、石巻市・門脇を中心に記録するドキュメンタリー映画を撮影。2012年2月には学校証言編『3月11日を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば』を発表。そして8月『津波のあとの時間割～石巻・門脇小・1年の記録』を完成、9月には仙台市・桜井薬局セントラルホールで公開された。

東日本大震災を扱った映画はたくさんありますが、被災者自身が製作委員会を立ち上げ、企画した映画というのは数少ないのではないのでしょうか。

この映画では「ことば」を非常に重視しています。映画をインタビューで構成するのは冒険です。しかし、あの圧倒的な津波の被害に立ち向かい、再生の道を行くには自分の体験を「ことば」にすることがとても大切なのです。門脇小学校を拠点に児童、保護者、教員、地域の人など100人近くにインタビューしましたが、最初の質問はいつも「あの地震の時どこにいて、何をしていましたか」でした。1人1人にそれぞれの体験があり、さまざまな出来事がありました。この映画を見て、石巻の人びとの息づかいを感じてもらえたらと思います。

青池憲司

- ◆会場 **たらこCafe**
仙台市若林区新寺3-2-32-101
TEL 022-256-3078
- ◆料金 800円 (1ドリンク付き)
- ◆主催・問い合わせ TEL022-721-1094 (右岸の羊座)
- ◆助成 (公財) 仙台市市民文化事業団